

三河高原・至福の小径

三河高原トレイルランニングレース 2006年9月17日

小野盛光



三河高原の小径を走るランナー

森の走りを楽しむのは、オリエンテーリング愛好家の特権？ いやいやそれは勿体無い。多くの人にその楽しさを知ってほしい。

世界選手権の小径

愛知県オリエンテーリング協会がトレイルランニングレースを、新城市を中心とした高原コースで開催し、約480名のランナーが楽しんだ。ランニングイベントをオリエンテーリング協会が単独で主催するのは初めてのケースである。

コースはWOC ロング・リレー会場となった新城市（旧作手村）の鬼久保ふれあい広場から豊田市（旧下山村）の三河湖・羽布（はぶ）ダム下流の香恋の館広場までの23km。トレイルランには比較的アップダウンは少なく、ほとんどが未舗装の小道。優勝タイムは1時間40分で設定どおりであった。

参加者はほとんど名古屋を中心とした愛知県民であり、ランニング人口の豊富さを感じた。年代も20歳から60歳までほぼ均等で、女性は約10%。数少ないオリエンティアの中で、2位入った山口大助が目立った。

参加者からよい評価をいただき、多くの参加者を得てWOC2005の支出超過を薄めることに少しでも役に立てばという願いも達成したが、いくつかの反省点もあった。地元民が歓迎ムードに至らなかったことが最も残念だったので、来年は今年の反省を生かして、地元の方が、沿道で応援していただけるような大会を目指したと考えている。

OLC 吉備路の例

以前からランニングレースに関わっているOLC吉備路の福田良雄さんと京都OLC会長の久保喜正さんに関わったきっかけやオリエンテーリングとの関係を伺った。

OLC吉備路は毎年4月に岡山アイアンマントライアスロンクラブ主宰で、吉備地方の名所をめぐる50kmの「鬼たいじマラニック」の運営に協力。主に参加者のコース誘導に当たっている。きっかけは吉備路の会長であった伊東洋一郎さんがこの大会の主催者であるトライアスロンクラブのメンバーであり、増加する参加者に対し、運営者が不足気味となり、10年前から「コース誘導」を担当している。次の誘導ポイントへの移動が、コースの地図を渡しておくだけで速やかに出来る能力と体力があるとの理由で声が掛かったそうです。交通費やTシャツなどをクラブの運営の助けにしておられます。

当日、クラブ員は揃ってクラブユニホームを着用し、オリエンテーリングが走るスポーツの仲間であることをランナーに示している。

京都 OLC の例

一方、京都OLCは、20回目になる「チャリティラン」や、久保さんがリーダーを務めるトライアスロンクラブの発案で始まった「東山36峰マウンテンマラソン」、「鯖街道ウルトラマラソン」の3つに関わっている。当日のパートは記録をオリエンティアが担当している。

チャリティランはNGO団体への寄付が目的であり、その主旨を理解して参加していただいている。他の2大会も多くのランニング愛好者に支えられ、若干の余剰金が生じ、トライアスロンクラブと運営者数に応じて分配しているとのことだ。オリエンテーリングのPRは多忙な運営のなかでなかなかできないようだ。

運営の感想

オリエンテーリング関係者のランニング大会への参画の利点は、オリエンテーリングのノウハウを生かし運営へ参加し、謝礼などを基にしたオリエンテーリング活動に活用することが主な狙いとなっている。

自身も三河トレイルランを運営してみても、ランニング愛好者にオリエンテーリングへの興味を持ってもらうことや、ランニングに比べ社会的認識の低いオリエンテーリングの初心者になってもらうことは、一時的とはいえ、容易ではないと感じた。

希望の持てるのは「高い持久走力はオリエンテーリングに非常に有利」であることをアピールすることではないかと感じた。

最後に久保さん、福田さんには膨大な資料をいただきました。紙面の都合で、今回は一部しか掲載できませんでしたが、今後のオリエンテーリング発展に活かしたいと思います。

（小野盛光）